

## 「なむあみだぶつ」と「なまんだぶ」

羽島市 長島 秀賢

以前ある方のご葬儀に伺った時の話です。

火葬場から戻り、「還骨」の勤行が終わって、「お斎」の席に着きました。(俗に「精進おとし」と言われることもあるようですが、私どもではお仏事の後でいただくお食事のことを「お斎」と呼びます。)

その「お斎」の席で、孫娘さんからこういうお尋ねがありました。

「お念仏おいうのは、なむあみだぶつですね」

「そうですね。」

「大勢の人がそのお念仏を口にされる中で、色々な言い方があるのに気づいたんです《なむあみだぶつ》《なまんだぶ》《なまんだぶつ》《なまんだぶ》《なんまんだぶつ》《なむあみだぶ》《なまだぶ》……。これって何が違うんですか？どれが正しい言い方なんでしょうか？」  
皆さんはどう思われますか？

「お念仏」と一言で言っても、人それぞれ。色々なお念仏がありますね。

何が違うんでしょう。言い方が違って同じなのでしょう。考えてみましょう。

例えば「母親」を呼ぶときにどんな呼び方があるでしょう。《おかあさん》《ママ》《かあさん》《かあちゃん》《おっかあ》《おふくろ》《あかあさま》《おい》……。

どんな呼び方をすかで、その人と母親の関係が見えてくる気がしませんか。(おいは違うと思いますが) どの呼び方もその人にとっての「母親」を呼ぶ声。「みんな違ってみんないい」。そういう意味では全部が正解なのでしょう。《お念仏》の言い方の違いも同じようなことなのではないでしょうか。

その人にとっての仏様。私にとっての阿弥陀様。《お念仏》を口にされる時、あなたにとって口にしやすい言い方で。「なむあみだぶつ」「なまんだぶ」「なんまんだぶつ」「なむあみだぶ」「なまだぶ」

(合掌)